

都市安全確保拠点整備計画策定に向けた説明会 議事録

日時：令和4年7月24日（日）

10:00 ～ 11:50

場所：摂津市立鳥飼西小学校 視聴覚室

【出席者】

■住民：26名

■運営関係者：

所 属		役 職	氏 名
摂津市	市長公室	室長	平井 貴志
	〃 政策推進課	参事	湯原 正治
	〃 政策推進課	主幹	衣川 智久
	〃 政策推進課	副主査	近重 佑太朗
	総務部	理事	辰巳 裕志
	〃	参事	永田 享
	〃 防災危機管理課	課長	竹下 博和
	生活環境部	次長	丹羽 和人
	建設部	参事	寺田 満夫
次世代育成部こども教育課	課長	浅田 明典	
株式会社 オオバ	まちづくり計画部計画設計課		井上 敬雄
	〃		伊勢 聡史

【議事次第】（司会：近重副主査）

1. 開会
2. 市職員紹介
3. スライド説明 （衣川主幹）
鳥飼まちづくりグランドデザインの概要及び都市安全確保拠点整備計画の策定に向けて
4. 質疑応答 （応答：各課担当者）
5. 閉会

【配布資料】

- ・鳥飼まちづくりグランドデザイン
- ・都市安全確保拠点整備計画策定に向けた説明会 スライド資料
- ・都市安全確保拠点整備計画策定に向けた説明会 参加者アンケート

【質疑応答議事録】※質疑応答の区切りを、奇数回・偶数回で色分け。

1	住民	<ul style="list-style-type: none"> ・鳥飼地区河川防災ステーション（以下、防ステ）建設用地のボーリング調査結果は出たか。 ・防ステ建設予定地にある山星屋の撤去工事の工程計画はあるか。 ・防ステの用土はどこをどのルートを通して搬入されるのか。 ・防ステの法面が住宅地と近接するが、景観保全のために何か配慮はあるか。 ・破堤した際のシミュレーション等、どの範囲で破堤した際に、この防ステから緊急復旧活動をどのように行うのか等の説明をしてほしい。 ・防ステの具体的な施設の要件（面積や盛土用の土の量など）を教えてください。
	市	<ul style="list-style-type: none"> ・ボーリング調査の目的は、防ステ建設にて盛土を行うにあたり、周辺住宅地等への影響が出ないように工事を行うための調査と認識している。分析結果についてはまだ得られていないため、後日、国土交通省近畿地方整備局淀川河川事務所（以下、淀川河川事務所）に確認したい。 ・今後、山星屋と淀川河川事務所で用地の補償等の協議を行うと聞いている。山星屋は移転先を探す必要があると聞いており、いつから工事が始まるかは今のところ未定。工程が分かり次第、情報提供する。 ・景観・災害時の活動内容・盛土量・用土の搬送ルートについては明確に回答できないため、淀川河川事務所と情報共有や確認を行い、説明を行いたい。
2	住民	<ul style="list-style-type: none"> ・防ステの完成予想図はあるか。
	市	<ul style="list-style-type: none"> ・スライド資料 p. 39 右上に記載。淀川河川事務所が作成したものである。
3	住民	<ul style="list-style-type: none"> ・断面、高さが分かる予想図はあるか。浸水深の想定が説明されたが、浸水深に対する施設の高さがわからない。 ・防ステにたどりつくまでの経路については検討しているのか。
	市	<ul style="list-style-type: none"> ・高さは淀川堤防の天端道路と同じになる予定。 ・防ステまでのアクセス経路は皆さんの意見も踏まえて検討出来ればと考えている。
4	住民	<ul style="list-style-type: none"> ・防ステができて、周辺の地価は変化するのか。周りの住民にとっては自宅の値段がどうなるかは売買などに重要であるが。
	市	<ul style="list-style-type: none"> ・現時点では答えられない。河川防災ステーションは全国にあるので、他の事例を参考に調べたい。 ・本日、お答えできない内容等への回答については後日、市の HP にて報告する。
5	住民	<ul style="list-style-type: none"> ・建設工期が長期（10 年程度）にわたるため、付近の小学校の児童の通学などに配慮し、しっかりとした工事中の安全警備をお願いする。 ・年 1， 2 回の説明会だけでなく、もう一度庁内で何回程度説明会を行うことが適当かを協議してもらいたい。また、説明会の情報については自治会へ連絡してほしい。連絡方法についてはメールでも可。 ・新在家からは防ステまで徒歩で 20～30 分ほどかかる。未曾有の災害が来た際、物資をどのようにして取りに来るのか、防ステまでの避難はどのように行うのかについて考えを聞かせてほしい。

5	市	<ul style="list-style-type: none"> ・工事期間中の住民の安全を守るための警備は、淀川河川事務所へしっかりとお伝えしたい。 ・河川防災ステーションの説明については、今後もこのような説明会を設けるなどして丁寧に行う。
	市	<ul style="list-style-type: none"> ・水害時の被害は広範囲にわたり、浸水高は最高で7.3mとなることが予想されている。緊急避難場所に指定している場所についても、浸水後は移動が困難になる。防ステは堤防の天端道路とつながっているため、防ステまでは陸続きで物資を運ぶことができるが、防ステから各所へはボートを用いた物資の配布が考えられる。浸水時は西小学校であれば3階以上の空間での生活を余儀なくされるため、事前に移動できる住民には広域避難をお願いしている。 ・避難行動要支援者で遠くへ移動できない住民は、近くの緊急避難場所へ避難することになるため、備蓄する物資についても協議して検討していきたい。しかし、浸水が広範囲にわたるため、大規模水害が発生した場合には、物資の輸送は困難になるものと考えている。
6	住民	<ul style="list-style-type: none"> ・防災放送が聞き取れないため改善してほしい。
	市	<ul style="list-style-type: none"> ・防災放送が聞き取り辛いという意見は他の住民からももらっている。 ・大雨の際など、さらに聞き取りにくくなることから、防災放送だけではなく、そのほかの伝達方法についても検討し、周知していく。
7	住民	<ul style="list-style-type: none"> ・防ステを盛土でつくる場合、造成から日が浅く、越水時に既存の堤防よりもろい可能性があるため、内部を構造物にするという考え方ができる。そうした場合、その空間は駐車場やそのほか日常時の利用や地震の際の避難場所としての利用も考えられる。土盛りにこだわらず、様々な観点から構造を考えてほしい。 ・防ステの整備はどこがイニシアティブを持って進めるのか。地元住民の意見がちゃんと反映されるのか。 ・避難行動要支援者の避難は地域コミュニティの共助によって行うこととして計画されているが、現状では地域コミュニティの希薄化（自治会加入率の低下）が問題となっている。その差についてどう対応しようと考えているのか。 ・現行の地域防災計画では、自治会を中心とした市民グループが避難所の自主運営を行うこととなっている。地域防災計画の改定が来年3月に控えているが、現行と同様に避難所の自主運営の表記を残すのであれば、自治会中心の市民グループが受け皿としてあるのか現状を確認する必要があるのではないか。 ・市民協働していきたいと考えているが、どのように住民の関心や説明会の参加などを促進させていくのか。
	市	<ul style="list-style-type: none"> ・防ステ整備のイニシアティブについて、地盤整備は国が主導。上部の構造物・上面活用は市が主導となっており、地域の方にとって使い勝手の良いものにするためにも、皆様のご意見をいただきながら検討していく。 ・盛土の越水時の強度については問題ないという認識であるが、淀川河川事務

7		<p>所に改めて確認したい。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コミュニティの観点は鳥飼まちづくりグランドデザイン（以下、グランドデザイン）でも記載しているが、特に災害時は地域コミュニティが非常に重要であるという認識であるため、どのようなコミュニティを今後作っていいのかなどについて、今後予定している地域の皆さんとのグランドデザインの意見交換会などで意見をもらいながら検討していく。
	市	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の地域防災計画の改訂では、指摘された部分の改定も考えている。地震時の避難所の運営については市職員だけでは賄えず、地域住民の協力が必要であるという認識である。自治会は会員の減少等で地区によって状況が異なることは認識している。避難者にも運営に協力してもらうことや、昨年度末までに防災サポーターの養成を行っており、避難所運営に協力してもらえよう育成していくことを考えている。市の社会福祉協議会の協力のもと、避難所運営を手伝ってもらえよう調整していきたいと思っている。 ・水害の時は、緊急避難場所に避難したとしても浸水継続時間の想定が2週間以上となっているところもあり、市民の皆さんには基本的に広域避難をお願いしている。避難所の運営のために自治会の方が広域避難できないということにならないよう、考え方を整理し、地域防災計画の記述内容についても検討していく。 ・避難行動要支援者の個別避難計画を検討する際には、地域住民の皆さんにもご意見をお聞きしていくので、ご協力をお願いします。
8	住民	<ul style="list-style-type: none"> ・盛土の強度を聞いたかったわけではなく、そもそも防ステにどのようなものが望まれるのかという観点で質問した。作るきっかけは千年に一度の想定の水害に対する施設だとしても、防ステの普段使いを考え、地域コミュニティの活動の拠点や地域のまちづくりのシンボルとなることを期待している。盛土でなく構造体によって内部に空間をつくりフットサル場をつくるなど、防ステ整備を利用して地域コミュニティの活性化に寄与するような拠点をつくるために、必要な機能や構造形態、景観等いろいろな観点から考えてほしい。現在問題となっているコミュニティの希薄化を、防ステ整備によってどれだけ挽回できるのかといった意識・感覚を持ってもらいたいと思っている。防ステ整備は鳥飼のまちづくり全体に影響してくること。どう作るかをよく考え、施設活用方法の裾野が広がっていくようなものにしてもらいたい。その模範を示してもらいたい。 ・避難行動について、以前からいくつかの自治会で「おねがい会員・まかせて会員」に取り組んでいるが、その担当にあたっている人は避難の支援にあたるため広域避難できないのではないか。 ・防災計画の内容について決める前に、例えば自治連合会の役員会議に途中段階で議論や報告をしに来ることで、実現性を住民へ確認してほしい。また、そうした場で、住民から違うアイデアが出るかもしれない。計画策定までにそういった作業を経て、完成度の高いものをつくってもらいたい。
	市	<ul style="list-style-type: none"> ・指摘された点に関して、市だけで考えていこうという認識では決してな

8		<p>く、地域の皆さんと相談しながら進めていきたいと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> 「おねがい会員・まかせて会員」はH27年度から地域版の防災マップを作っていた中で検討していただいているが、その後の水防法の改正（H27年5月）によって河川の浸水想定区域図が変更され、新たに浸水継続時間や家屋倒壊ゾーンが示されたことにより、安威川以南の地域や鳥飼地域の水害のリスクが明らかになった。市としても今後、地域版の防災マップを、広域避難の観点を含め、更新していきたいと考えており、ワークショップ等を通じて住民の皆様の声をお聞かせいただきたいと考えているので、ご協力をお願いする。
9	住民	<ul style="list-style-type: none"> 景観の確保について、防ステ法面の景観の工夫は上面の整備として市が主導で行っていくという認識であっているか。法面を淀川の堤防のように草地のままにはしてほしくない。
	市	<ul style="list-style-type: none"> 法面は国の管轄になるため、市が間に入りながら、国と協議を進めることとなる。
10	住民	<ul style="list-style-type: none"> 児童センターについての説明はないのか。
	市	<ul style="list-style-type: none"> 今回の説明会における児童センターの説明としては、市立とりかいこども園（以下、こども園）の老朽化に伴い、地域の安全に資するような施設として高台化による建替えを検討していくという点と、平常時の活用はランドデザインを参考に検討していきたいと考えている。児童センターについてご意見をいただく機会は今回だけではなく、次の機会も想定している。
11	住民	<ul style="list-style-type: none"> ランドデザイン p. 34 記載の「とりかいこども園の高台化整備」とは、今回の説明（スライド資料 p. 20）のどれにあたるのか。高層にするのか盛土にするのか。地面を高台化するというのはわかるが、建物を高台化するという意味がよくわからない。
	市	<ul style="list-style-type: none"> こども園の建替えに合わせて地盤をかさ上げし、その上にこども園を建てることを検討しており、ランドデザインでは「高台化」と記載している。具体的な高さは検討中であるが、例えば1階は浸水するが2、3階は避難できるスペースを設けることができるようにするなどして、高台まちづくりを実現する方法の一つとして進めていくことを考えている。
12	住民	<ul style="list-style-type: none"> こども園の高台化はどのような構造で行うのか。
	市	<ul style="list-style-type: none"> 盛土で行うことを検討している。
13	住民	<ul style="list-style-type: none"> 国の言う高台化では、盛土による方法と構造物による方法の2つを示しているが、市議会の答弁の中における高台化では、盛土で行うという方向に寄っているように聞こえ、考えが限定されているように思われる。 鳥飼地域のような市街地の中では盛土よりも、構造物による高台化のほうが現実的ではないか。公共施設の場合、水がついてはいけない機能は3、4階で普段使いの機能は1、2階に配置するといった、階数によった浸水対策もよくある。鳥飼地域や摂津市では構造物による高台化のほうが合っていると思うが、市はどう思っているのか。
	市	<ul style="list-style-type: none"> 指摘された通り、盛土だけでなく構造物による高台化も合わせた方法によっ

13		<p>て浸水しない空間をつくり、高台まちづくりを進めていこうと考えている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・こども園については、園庭の部分も盛土によってかさ上げすることにより、水害時にも浸水しないスペースをつくることを検討している。 ・今後、高台まちづくりを進めていくにあたり、高台化の方法としては、盛土だけでなく構造物による方法も含め、様々な方法について検討していく。
14	住民	<ul style="list-style-type: none"> ・今回の防ステとこども園の説明会に、若い世代の出席が少ない。小学校を会場に使っているのに、小学生を持つ親世代の認知度が足りていないことが明確に表れている。小学校を利用しているのであれば、小学校から親世代への説明会開催の告知をお願いする等して、防ステ・こども園ができた後に利用する世代に今回のような説明を聞いてもらわないといけない。 ・市内のまちづくり関連部署のみならず、関係課の横のつながりを強めないと市民には伝わらないと思う。今は、役所全体が協力してランドデザインを進めていくという意気込みが感じられない。そのため、市民のランドデザインの認知度も低いと思われる。大きなまちづくりを行うのであれば、市民にもっと知ってもらう必要があると思うが、そういう点についてどう考えているのか。
	市	<ul style="list-style-type: none"> ・今回参加できなかった市民への情報提供のために市のHPに資料等を掲載する。また、様々な世代の意見を募るための窓口を設置していくことを考えている。 ・市内関係課の連携についての重要性は理解しており、今回の本事業に対しては複数課参加の市内専門チームを設置している。 ・ランドデザインの周知については、積極的に周知活動を行っていきたいと考えており、これからも協力をお願いしたい。
15	住民	<ul style="list-style-type: none"> ・我々は日ごろから協力すると言っている。周知等に自治会、老人会などを使ってくれれば良いと思いい前から言っているが、市がそういった工夫をしていない。 ・今回の参加者の人数を見て、「少ない、これではダメだ」と感じてもらいたい。
	市	<ul style="list-style-type: none"> ・これからも市への協力をお願いしたい。
16	住民	<ul style="list-style-type: none"> ・ランドデザインと市総合計画との関係はどうなっているのか。議会の承認が得られている市総合計画に基づいて作成されているのか、特に関係がないのか。
	市	<ul style="list-style-type: none"> ・ランドデザイン p. 17 に位置付けの記載があるが、市の最上位計画である摂津市行政経営戦略の地域版としてランドデザインが位置付けられている。総合計画とまち・ひと・しごと創生総合戦略を一体化したものが、行政経営戦略となる。

以上